

宮城県立視覚支援学校

進路指導通信

第22巻 1号 (通巻44号) 令和3年5月28日

発行 宮城県立視覚支援学校 進路指導部

令和3年度の学校生活も早いもので2ヶ月が経過しようとしています。

新型コロナウイルス感染予防を念頭に新しい生活様式の中での学校生活を送っている児童生徒の皆さん。このような時だからこそ「できることに精一杯」取り組みたいと学習に、学校生活にと一生懸命取り組む姿が見られています。

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、例年とは異なる方法でのオープンキャンパス等の実施や入試の実施、福祉サービス事業所の実習や手続きが行われる可能性もあります。入学試験、国家試験、就労、福祉サービス事業所の利用に向け、情報入手に努めながら、一人一人の進路希望実現に向けて支援していきたいと思えます。

「未来予想図」

校長 石墨 安洋

今から20年ほど前、勤務している高校の進路行事をまとめたものとして、当時所属していた進路部員数名で進路ノートを作ることになりました。その最初のページには将来の夢を描いてもらってはどうかという話になり、どういったページにすれば描きやすいか、作成チームでいろいろとアイデアを出し合ったのを覚えています。ただ単にやりたいことを聞かれても高校1年生の4月にはっきりと答えられる人は少ないでしょう。だからこそ高校の進路行事は3年間かけて様々なものに取り組んでもらい、進路の道筋を固めてもらうことを狙って企画されているのです。ただ、小さい頃に見た夢や希望を思い出し、一度将来の自分の姿を描いた上で3年間の進路行事に取り組めば、より自分ごととして進路を考えていくことができるのではないかと考えました。高校入学までの15年間の中でそれぞれが何を見て、何に気づき、何を考え、何が欲しいと思い、そして何をやってきたのか、周囲からはどんな期待をされていたのかを一つ一つ質問に答えてもらいます。そうするうちに忘れてしまったり見えなくなってしまうていたりしていたことに気づき、自分という人間を見つけ、高校を卒業し10年、20年経過したときにどんな姿になっているのかを予想して言葉にして書いてもらうことにしました。それぞれの将来の姿を描いてもらうページということで、作成したページのタイトルは有名な歌のタイトルから「未来予想図」としました。

幼い頃に見た夢や、描かれた予想図通りに進路選択をすることは難しいことです。それは、進路を選択するときの条件が人によって、そしてそのときによって大きく変わってしまうからです。しかし、条件をクリアしただけでは自分の進路を決めることは難しく、やはり自分という人間がどういった人間なのかを知ることとても大切になってきます。この学校で学ぶ皆さんも、自分がやりたいこと、自分にできること、周囲からの期待等々、多くの情報を収集し、自分自身を見つめ直した上で、自分だけの「未来予想図」を描き、その実現に向けて努力を続けてください。

令和2年度進路状況

令和2年度（令和3年3月）卒業（修了）生徒の進路状況について以下の通りです。

高等部普通科生徒の進路については、進学が2名、障害福祉サービス事業所に3名が進みました。

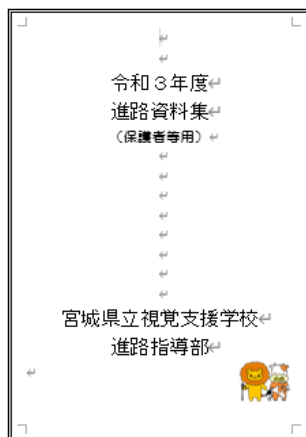
高等部保健医療科，専攻科保健医療科，専攻科理療科の進路については5月10日現在では3名が就職をしています。

【参考】高等部・専攻科進路状況

令和3年5月10日現在

学 科	就 職			進 学		福祉 サービス 事業所	その他	計
	病院・ 治療院	開業	その他	本校 専攻科	大学 短大等			
普通科				1	1	3	0	5
本 保	1						1	2
専 保							1	1
専 理			2				1	3

※就職の「その他」は、老人介護施設（デイ・サービス等），企業内理療師（ヘルスキーパー），一般事業所等への就職などを示しています。



令和3年度進路資料集（保護者等用）について

4月24日（土）の際に「令和3年度進路資料集（保護者等用）」を担任を通してお配りしました。（理療科については希望者）

今年度の個別面談等での資料や進路ガイダンス資料としても活用してまいりますので，1年間お手元に保管をお願い致します。なお，生徒には「進路のしおり」をホームルームで配付し進路学習等で使用してまいります。